

**令和4年度  
全国学力・学習状況調査  
学校の調査結果**



**令和4年12月**

**海老名市立柏ヶ谷小学校**

令和4年度

# 全国学力・学習状況調査について

## 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年，中学校第3学年 原則として全児童生徒

## 調査内容

- (1)教科に関する調査(国語，算数・数学及び理科)

出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では，上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については，記述式の問題を一定割合で導入する。

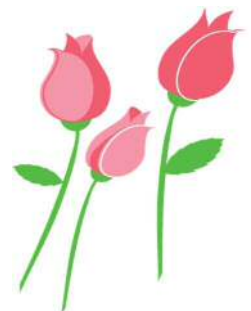
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

| 児童生徒に対する調査                   | 学校に対する調査                           |
|------------------------------|------------------------------------|
| 学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 |

## 調査実施日

令和4年4月19日(火)

※児童生徒質問紙調査について，一部の学校で，端末を活用したオンラインによる回答方式で実施



# 小学校 国語

## 出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することができるかどうかをみる。
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることができるかどうかをみる。
- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。
- ・表現の効果を考えることができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

## 本校の調査結果

### ◆比較的できている点

- 「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることができるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。授業や活動の中で、話題について興味関心をもち、聞く目的を明確にしながらか集中して聞く態度が育っていると考えられます。
- 「表現の方法を考えることができるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。国語の「読むこと」の学習はもとより、朝読書の時間や隙間時間に、文学的な文章に親しんできたことが学習成果として表れていると考えられます。

### ◆課題のある点

- 「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるか」という記述式の問題では、県・全国の正答率を下回り、無解答率も高い結果となりました。また「自分の考えをまとめることができるか」という問題でも県・全国の正答率を下回りました。このことから、文章に対する感想や意見を文章で伝え合うことについて課題があると考えられます。

## 今後の具体的な指導改善のポイント

- 国語「書くこと」の学習では、事象を説明したり意見を述べたりする活動、事実や経験を基に感じたり考えたりしたことを書く活動を重ねることで、「書くこと」に対する抵抗感をなくし、国語を使って適切に表現する資質・能力を高めていきます。

# 小学校 算数

## 出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・二つの数の最小公倍数を求めることができるかどうかをみる。
- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できるかどうかをみる。
- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる。
- ・百分率で表された割合を分数で表し、基準量から、比較量を求めることができるかどうかをみる。
- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。
- ・二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。
- ・全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかどうかをみる。
- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるかどうかをみる。
- ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・加法と乗法の混合した数の求め方を解釈し、他の場合の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。
- ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できるかどうかをみる。
- ・長方形・ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる。
- ・作図手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる。

## 本校の調査結果

### ◆比較的できている点

- 「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。日常生活の事象について、目的に応じてデータを整理する観点に着目し、データの特徴を捉え考察することができています。
- 「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができるか」という問題では、正答率が高かったです。問題を解決するために、数の処理の仕方を考え、整数の乗法の計算を正確に行うことができています。

### ◆課題のある点

- 「数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているか」という問題や「伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できるか」という問題では、県・全国の正答率を下回りました。「変化と関係」の領域に関する理解や思考力に課題があると考えられます。

## 今後の具体的な指導改善のポイント

- 各領域の指導にあたり、具体物を操作したり日常の事象を観察したりして、体験を伴う学習を通し、実感を伴った理解につなげていきます。
- ICT 機器を活用することにより、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表現する力を高めたりすることができるようにします。



# 小学校 理科

## 出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・昆虫の体のつくりを理解しているかどうかをみる。
- ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・メスシリンダーという器具を理解し、正しい扱い方を身に付けているかどうかをみる。
- ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・日光は直進することを理解しているかどうかをみる。
- ・実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる。
- ・実験や観察で得た結果を解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる。

## 本校の調査結果

### ◆比較的できている点

○全体として、県・全国の正答率を上回りました。

○「昆虫の体のつくりを理解しているか」という問題では、県・全国の正答率を大きく上回りました。校内研究で取り組んでいる理科・生活科の学習を通して、本校内の恵まれた自然環境を生かし、実感をもとに学びを深めた成果が表れていると推測されます。

○「メスシリンダーという器具を理解しているか」「日光は直進することを理解しているか」という問題では、県・全国の正答率を大きく上回りました。理科を学ぶ上で、その基盤となる基礎的な知識・技能が定着していると考えられます。

### ◆課題のある点

○「問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるか」「他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるか」「実験や観察で得た結果を解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるか」という問題では、県・全国の正答率を下回り、無解答率も高い結果となりました。習得した知識を、思考力・判断力につなげることに課題があると考えられます。

## 今後の具体的な指導改善のポイント

○問題解決を通して習得した知識や実験を通して得られた具体的な数値を分析した結果などを根拠として表現する場面を設定し、より深い知識の習得につなげていきます。

# 児童質問紙

## 学習について

### ◆本校のよかったところ

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に意欲的に取り組んでいる児童が多く見られました。
- 算数の授業では、「問題を解くときに、もっと簡単に解く方法がないかを考える」「公式やきまりを習うときにそのわけを理解するようにしている」と答えた児童が全国平均を上回っていました。

### ◆本校の課題と思われるところ

- 「学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに「できていない」と答えた児童の割合は、全国平均を大きく上回りました。
- 話し合い活動を通して、解決方法を決めたり、自分の考えを深めたりすることについては、苦手と感じている児童が多く見られました。

## 生活について

### ◆本校のよかったところ

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童が多く見られました。規則正しい生活習慣が定着していることがわかります。
- 将来の夢や目標をもっている児童が多く見られました。
- 友達と協力したり遊んだりすることを楽しいと感じており、全体の95%以上が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という問いに肯定的に回答していました。

### ◆本校の課題と思われるところ

- スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と決めた約束は比較的よく守られているようですが、長時間にわたりスマートフォンでSNSの利用や動画視聴をしたり、テレビゲームをしたりしている児童が多いことから、利用時間については、さらに、家庭での理解・協力が必要だと思われます。
- 「地域への行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何か考えることがありますか」という問いに「ない」と答えた児童がコロナ禍前比で約10%下回りました。新型コロナウイルス感染防止による影響を大きく受けていることがわかります。

## 今後の具体的な取組について

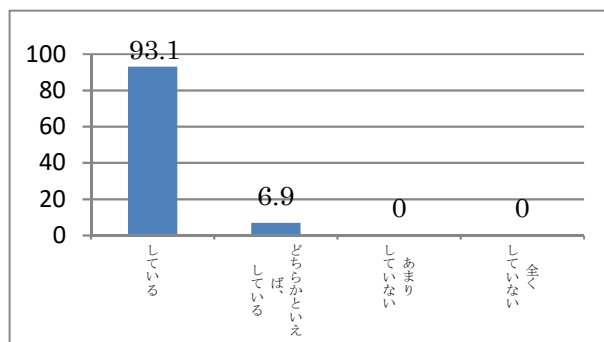
- 「一人ひとりが学びをたのしむ授業」をテーマにした校内研究を充実させ、各教科で個別最適な学びが実現できるような授業研究を継続していきます。
- 授業の中で意見を交換する場面や自分の考えをまとめ、発表する場面などで、ICT機器を積極的に活用していきます。
- ご家庭での理解や協力を得ながら、児童が興味関心をもち、意欲的に学べるよう、ICT機器の活用も図りながら家庭学習の充実を図っていきます。

# ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

## 1 引き続き、規則正しい生活習慣を心がけましょう。

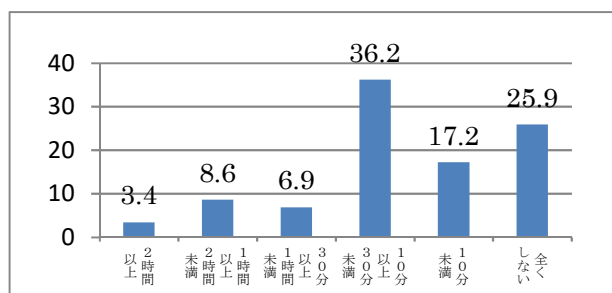
「起床」「食事」「就寝」をほぼ毎日同じリズムで生活することは、日々の健やかさを保つことにつながります。引き続き、規則正しい生活リズムを意識して生活しましょう。



朝食を毎日食べていますか

## 2 本を読む機会を大切にしましょう。

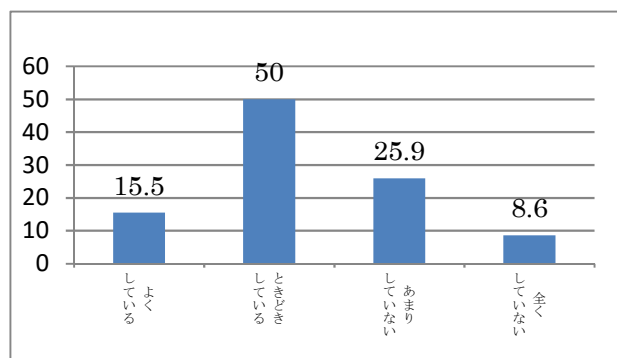
読書は、集中力や語彙力、読解力を高めるとともに、コミュニケーション能力の向上やリラックス効果もあると言われています。引き続き、本に親しむ機会を大切にしましょう。



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

## 3 計画的に家庭学習に取り組む習慣をつけましょう。

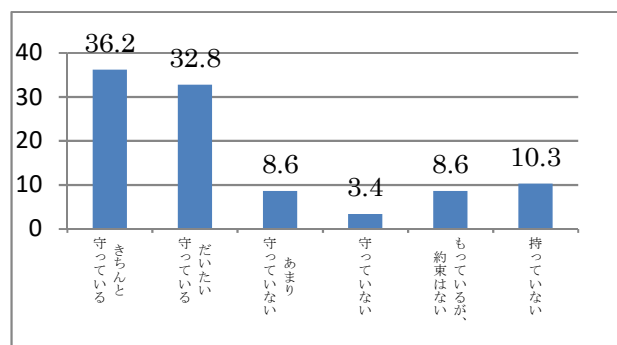
ポイントは、「毎日少しずつ」です。まずは、お子さまに合った時間から始めてみましょう。家庭学習の内容については、年度当初に配付した『家庭学習の手引き』も参考にしてください。



家では自分で計画を立てて勉強をしていますか

## 4 ICT機器の使用について約束を確認し、守っていきましょう。

今後、ご家庭でもICT機器を使用して学習したり、遊んだりする機会が増えていきます。適切な使い方や利用時間等についてお子様と話し合い、よりよいICT機器の活用に努めましょう。



携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

## 結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様により市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係